

# さくらじま

142号

URL:<https://kagocsw.jp> E-mail:jacsw@po.minc.ne.jp

発行：  
公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会  
会長 東 和沖  
鹿児島市鴨池新町1-7 県社会福祉センター内  
Tel 099(213)4055  
Fax 099(213)4051

## 各地区支部長から近況報告

(公社)鹿児島県社会福祉士会  
串木野・日置地区支部長  
迫田 修幸

### 〈地区支部長として感じている地区支部の姿〉

串木野・日置地区支部長をさせていただいております、迫田修幸です。

現在、串木野・日置地区支部は会員が約30名と会員数が少なく、鹿児島県社会福祉士会に置かれている7つの地区支部の中で最も規模が小さい地区支部です。そのこともあって、活動は主に地区支部会員を対象とした研修会の開催が主になっており、まだ入会していない社会福祉士（以下「非会員」と呼びます）・これから社会福祉士の資格を取得しようとされている方たちの確認にも留意しております。そして、研修会には出来るだけ非会員にも参加を呼びかけており、さらに社会福祉士の資格を持たない方でも会員・非会員の関係者が希望されれば研修会への参加を受け入れております（ちなみに、過去に『子どもの貧困問題』をテーマにした研修会を開催させていただいた際には会員の身内である医師の方が参加され、「子どもが困った時、その子どもが関係機関に直接SOSを発信できるシステムが必要だ。」といった主旨の発言をされたことがありました。そのことが今でも忘れられません）。

これまでの活動を振り返って感じることは、最も規模が小さい地区支部だからこそ会員・非会員を問わず「誰がどこにいる」という、いわば「互いの顔が見えやすい」という強みがあるのではないかということです。

こうした強みを生かしつつ、今後は他地区支部や他団体との連携を強めていくことも目指し、皆様と一緒にになって、少しずつでも地区支部活動を盛り上げていきたいと望んでおります。

至らないところが多い私ではありますですが、よろしくお願いいたします。



(公社)鹿児島県社会福祉士会  
南薩地区支部長  
林 大作

指宿市の医療機関でMSWとして勤務して11年目です。今年度より南薩地区支部長を務めております。

昨年5月に開催した南薩地区支部総会での重要議題は「支部会員の高年齢化」でした。ここ数年の地区支部の運営参加者や研修会参加者は、40～60代の会員が多くを占めています。また、支部会員の年齢も20～30代は少なく、このままでは支部の先細りが予見される状況です。この傾向は他地区支部でも同様に生じており、「会員の高年齢化」という問題は県社会福祉士会全体でも大きなテーマになりつつある状況です。

その対策として南薩地区支部では、20～30代の会員が主体となり、研修会や交流会の企画・運営を行う「ユースの会」の活動を再開しました。感染症流行に伴い活動を停止していましたが、今年度より資格取得後10年以内の会員も対象に加え活動再開しています。この活動に興味を持った若い世代の新規会員が増加することを期待しています。また、ベテラン会員の交流促進目的に「シニアの会」も発足しました。今後は、シニア世代からユース世代に知識や技術が継承される仕組みを作りたいと考えております。

今年度は会員の自己研鑽のために、感染状況に留意しながら研修会を実施しています。研修会以外にも、若い世代や資格所得後間もない方が職場に定着し、長く地域で活躍できる環境作りを行うことが10年後の南薩地区の福祉向上に繋がると考えております。この地域の貴重な人財が、職務や職場の悩みを理由に他地域や他領域へ流出することを防止するために「同じ志を持った仲間と悩みを共有・相談できる場」や「社会福祉士としてやりたいことを実現できる場」を会員に提供していくことも検討しております。

今後も会員の声に耳を傾けながら支部運営に取り組んで参ります。ご意見がある場合は、事務局にお気軽に連絡を頂けると幸いです。

## 全国障害者スポーツ大会に出場して

田中 正信

令和5年10月28日から30日まで、鹿児島県で初の「全国障害者スポーツ大会（燃ゆる感動かごしま大会）」が開催され、私は卓球競技（精神障害の部）の鹿児島県代表選手として出場しました。この大会は、国民体育開会（来年の佐賀大会からは、「国民スポーツ大会」という名称に変更となります。）の後に、その開催県で開催される障害者のための全国大会となります。オリンピックの後にパラリンピックが開催されるのと似ていますね。

競技種目数は、個人競技（陸上：身・知、水泳：身・知、アーチェリー：身、卓球：身・知・精、フライングディスク：身・知、ボッチャ：身、ボウリング：知、これにサウンドテーブルテニスという視覚障害者の種目（卓球に含まれます）があります。

団体競技は、（バスケットボール：知、車椅子バスケットボール：身、ソフトボール：知、グランドソフトボール：身、バレーボール：身・知・精、サッカー：知、フットソフトボール：知です。これらに加え、オープン競技として（スポーツウェルネス吹矢：身、電動車椅子サッカー：身、ふうせんバレーボール：身・知・精）がありました。様々な事情からか、三障害（知的・身体・精神）全ての障害者が出場できるのは、正式競技では現在のところ、卓球とバレーボールの2種目となっています。私は、身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳の両方の手帳を所持しておりますが、「精神障害の部」に出場しました。

簡単に、この大会について説明しました。この後、私は、競技とは別に、「大きな役割」をいただくことになります。5月の県予選が終わり、7月頃だったでしょうか？選手の写真撮影や、メンタルチェックがハートピアで行われました。その際に、ハートピアのスタッフから、「田中さん、県の担当者から話があるそうだよ。」とのことで、別室に案内されました。別室に入ると、県の担当者という方が自己紹介の後、「実は、田中さんに大会の時にやっていただきたいことが三つあるんです。」とおっしゃいます。

私：「？？？」

担当者：「一つ目、開会式の前日に開催される鹿児島県選手団の結団式の時に副知事から、選手団の団旗を受け取ってください。二つ目、開会式の入場行進の時に団旗をもって行進してください。三つ目、開会式での選手宣誓の時には、宣誓する選手のすぐ後ろで団旗を掲げてください。」

私：「それって、『旗手』ですよね？」

担当者：「はい。田中さんに鹿児島県選手団の旗手をお願いしたいんです。（ニッコリ）」

私：「え~~~~~っ、そんな大役、私でいいですか（い）！？」

担当者：「はい。田中さんが受けてくださるとありがとうございます。」

私：「私なんかで良いのであれば、喜んでお受けいたします。」

担当者：「ありがとうございます。また本番前にリハーサルとかやりますので、頑張ってください。そして、この件は内密にね。」ちゃんちゃん。

こんな感じで、鹿児島県選手団（467名）の旗手が決まったのでした。「なぜ私だったのか？」については今でも「謎」のままです…。

卓球競技の強化練習も何回か開催され、周りは、いよいよ大会本番ムードへ。そんななか、またまた事件が起こります。障害者卓球の監督からのLINEが…。

「田中さん、こんにちは。全国大会の卓球の開始式（全体開会式と区別するため、各競技は開始式という言葉を使っていましたみたいですね。）で選手宣誓やってもらうことになったから連絡しときます。詳細は、卓球連盟から文書が届くからね。よろしくね～。」

本件については、「事務局便り」に書きましたので、割愛します。そんなわけで、卓球競技開始式の選手宣誓もやることになったのでした。

開会式のリハーサルも無事に終え、少しづつ大会が近づいてきました。リハーサルで分かったことは、団旗を固定し行進する時に使う「革ベルト」が私には長すぎるということ。旗を持つと、旗を支える部分の留め具が、丁度股間に当たるんです「これ、ダメ、ぜったダメ！」と県の担当者に訴えました。ベルトに穴をあけて短くするなりしなければ、行進中に「やばい」ことになるのは間違いないし。「長さを調節してください。」とお願いしたら、「革に穴をあけるの大変そう…。」と困り顔。私が、「スラックス用の革ベルトの穴あけのため購入した、革用のハトメを持っているけど、県の物に私が穴なんかあけたらまずいですよね？」と話すと、担当者は、神を見たかの如く、「田中さん、お任せします。ご自分で好きな長さに調整してくださいって結構ですから！」とのこと。（いいんかい？）おかげで、私にピッタリに調整できました。入場行進の準備完了。（開会式まで自宅で保管）当日の入場行進に絶対に忘れてはいけない物なので、持ち物リストの最上段に記入。

### 結団式～開会式

10月27日に城山ホテル鹿児島で結団式、激励会が開催されました。全選手、競技役員などが集まっての結団式で、いよいよ明日からということもあり、大変明るい空気の中にも緊張感のある雰

囲気で会は進行しました。選手代表の挨拶などがなされ、式の最後の方で、私は副知事から団旗を受け取りました。副知事からは、「頑張ってください！」という言葉をいただきました。「団旗を受け取った後に、選手に向かって旗を振りたい。」と県の担当者に事前に相談しましたが、却下されました。みんなからは、「しれっとして、やれば盛り上がったのに～。」と言われました(笑)今思えば、やればよかったな～。

内容がよくわかつていなかったのですが、結団式の後に「激励会」というものが予定されています。結団式とは別物なんだな…。なんて思っていましたが、別枠であった理由がよくわかりました。なんと、秋篠宮ご夫妻がご臨席になったのです。ほぼ直前まで選手にも知らされておらず、まさに「サプライズ」でした。全選手向けのお言葉こそありませんでしたが、激励会中はご着席ください、会場を後にするため、選手席の間の通路を歩かれる際には、各種目の選手達とお言葉を交わされました。(選手は事前に決まっていたようです。)私にとって、皇族とお会いするのは初めてでした。お二人の素敵な笑顔に、心が洗われる思いでした。多くの選手たちにとって、思い出に残る激励会となりました。

10月28日、いよいよ開会式当日です。選手宣誓や、炬火ランナー達と最終リハーサルを行いました。そして、本番へ。

開催県の入場行進は、最後でしたので、開始後30分以上待ちました。その間も選手たちは終始笑顔でわいわいやっていました。入場行進は、先頭で県名が書かれたプラカードを高校生が持ち、その後に団長と旗手が並び、その後ろを選手団が行進します。アナウンスが流れます。「鹿児島県選手団467名、団長、○○、旗手、田中正信」。会場は大声援。しかし、前の県と比べてひときわ大きいかというと、そんな感じは受けませんでした。全ての参加県に対して、ずっと大声援を送ってくれていたのだと思いました。緊張が、ワクワク感に変わった瞬間でした。「絶対に優勝する!金メダルだ!」と誓いました。

無事に開会式を終え、旗手としての大きな仕事も終えました。テレビ局などのインタビューを終え、大急ぎで卓球試合会場に向かいました。

卓球開始式の選手宣誓もなんとか噛まずに乗り越え、いよいよ卓球競技が始まります。選手団は、悔いのない試合をすること、試合を楽しむことを皆で誓いました。さあ、試合開始です。

ここから後は、次号となります。なんと、調子に乗って長々と書きすぎて、前編・後編での掲載となりました。ここまで読んでください、ありがとうございます。次号は、「試合編」、「閉会式・解団式編」となります。

## 久しぶりの対面での新年会に参加しました

前原 悅子

2月3日中央駅近くの居酒屋での新年会でした。うろ覚えの場所にうろうろしながら、何回も事務局担当の方に電話をしながら、何とか時間ギリギリに到着できました。

最初参加者少なめとお聞きしていましたが、会場いっぱいの40名の参加者でした。

令和2年加入された方から新会員ということでの新年会呼びかけに、たくさんの新入会員の参加者でした。皆さんの会員になっての抱負等を聴きながら、自分のまだそんなに遠くない入会時を思いました。

座席決めのカードを引くときのドキドキ感、持ち寄りの景品を決めるときのもワクワク感など久しぶりの楽しい感覚でした。

私は、実務経験がなく社会福祉士会に入会して、新年会、忘年会と参加しながら皆さんとのつながりを増やしていました。おかげさまで、てんかん協会鹿児島県支部の活動についてたくさんの方に知っていただく機会を頂いたと思っています。

今回の新年会でも、社会福祉士会の会員でもあり、てんかん協会にも会員になってくださった方が、3月26日のイベントチラシを印刷してきてくださいって、広報するきっかけと時間をもらうことができました。

座席の周りには、基礎研修で一緒にの方々の皆さんもいらっしゃって、本当に楽しい新年会でした。年齢に関係なく同じ目標で集う楽しい時間は、少し年齢を重ねた私にとっては、たくさんの元気をもらえ、ありがたいかけがえのない空間でした。



## 各地区支部長から近況報告

(公社) 鹿児島県社会福祉士会  
大島地区支部長  
川畠 博行

大島地区支部は喜界島・奄美大島・加計呂麻島・徳之島・沖永良部島・与論島の島が対象で自治体単位は12市町村となってます。基本的な定例支部活動は奇数月に大島地区支部理事会と偶数月に定例会そして、時々、研修会をZOOMでやっています。海をまたぐ地域特性があるので移動を考慮するとZOOMが発達したのは良かったです。これまでの地区支部活動で特徴的なことは平成22年の奄美豪雨災害時に地区支部会員で協力して独自の「被災者むけの生活相談」を開催したことかな?豪雨で死者も2自治体で3名、住居に影響があった方多数(詳しくは「平成22年10月奄美豪雨災害の検証」で検索ください)。そんな時に地区支部の会員から、なにか地区支部でできることは無いかとの声があがり、被害のあった地区で公民館を借用して臨時の相談所を開設しました。相談に来られる方をいろいろ想定して、緊急の相談研修を支部内で実施し(地元の新聞2紙の集約記事を資料に)開催しました。解決できない相談は担当部署に繋ぐことをルール化(もちろん相談者の承諾はいただきました)して、『とにかく、一歩踏み出す』を合言葉にやってみました。今回の「能登半島地震」での支援に関しても大島地区支部として何ができるか地区支部LINEで発信があり協議をしました。詳しく記したいところですが文字数の都合で…。

今後もノビノビと活動が続けばいいな~って満開の寒緋桜・五分咲きのアマミセイシカ・一分咲きのモクレンそんな可憐な花を見ながら主観的に考えました。

(公社) 鹿児島県社会福祉士会  
鹿児島地区支部  
西 真人

「オンライン活用が研修の質と幅を広げた!!」これを実感している約3年間です。

地区支部役員みんなで必死に習得し、オンラインをフルに活用した研修を行うことが出来る様になりました。

具体的には、教育分野、ソーシャルワーカーとしての姿勢、刑務所等出所者支援等幅広い分野の第一線で活躍している方をオンライン講師としてお呼びし研修を実施してきました。また、日置地区支部の方々との合同研修を企画実施。鹿児島地区支部は離島も含んでおり、今では、地区支部以外の参加の方も多くおられます。

私自身、令和2年より福岡県大川市に在住。障がい分野の就労継続支援A型事業とグループホーム事業を行っております。就労支援は主に弁当製造販売。「日曜日に少年団の試合があるから30個配達してほしい!」「高校の学食がなくなったから配達してほしい!」地域には色々なニーズがあります。出来る限り地域のニーズに応えらえる弁当屋、A型事業所となれるように対応させていただいている。職員は最小限。メンバー1人1人が「自分たちの仕事」という自覚を持つ中で毎日取り組んでいます。またグループホームは健康で安定した生活を送れるように日々訪問支援等を行っております。刑務所出所者等支援も行っており、刑務所から出所し住むところがない方を期間限定で受け入れる自立準備ホーム(法務省から委託)の運営、また保護司の活動も行っています。

全ての支援の根幹は社会福祉士で学んでいる<個人の尊厳>と<エンパワメント>。彼らの頑張りにより私自身もエンパワメントしています。福祉の可能性は無限大!

